

令和 6 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 2 月

札幌市立西岡北中学校

1 学校教育目標の達成に向けて目指す学校像

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 明るい挨拶と挨拶が交わされる学校 | 2. 学ぶ意欲にあふれ、一体感のある学校 |
| 3. 願いに応え、信頼される学校 | |

2 本年度の教育推進の重点の柱

- 未来を拓く「資質・能力」の育成
- 組織的な生徒指導とインクルーシブ教育の充実
- 保護者、地域、他校種間等との連携
- 地域社会における体験活動等を通じて学ぶキャリア教育の充実
- 生涯を通じて健康・安全で活力ある人生を歩むための基礎の育成
- 効果的な I C T 機器の活用をおとした学習活動等の充実
- 教職員の服務規律遵守及び勤務内容の見直しと働き方改革の推進

3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目		自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	改善策の適切さ	
					自己評価の適切さ	
学校運営	1	本校の生徒は目標をもって、学校生活を楽しく送っている。	B	生徒アンケートでは、89%の生徒が「楽しい学校生活」を送っている。また 77%の生徒が「目標をもって学校生活」を送っている。保護者アンケートによると、「お子さんが目標をもって学校生活を送っているか」という問いについて、肯定的な回答は 69%であった。これらから、本校の生徒は、これまでと同様に、学校生活を楽しくではいるものの「目標をもつ」という部分に課題があると捉えることができる。 改善の方策として、授業や諸活動において目標を立てるだけでなく、取組の途中においての修正や取組後に目標に対する自己評価(振り返り)に重点を置いた学習や活動を積み重ねていくこと、それを教師や保護者が認め、励ましていくというサイクルを繰り返し大切にしていくことが重要と考える。	A	A
	2	本校は教育活動全般について、保護者や地域の願いによく応え、「開かれた学校」である。	B	保護者アンケートによると、「学校は地域や保護者の願いに応えようとしていると思うか」という問いに対して 81%の肯定的回答がある。昨年と比較すると 5%ほど減少している。また、肯定的回答のうち「だいたいそう思う」が 66%となっており、積極的な肯定とは言い難い。 改善の方策としては、保護者や地域の皆様に、本校の教育を御理解、御協力いただく場をこれまで以上に設定し、学校と保護者、地域の皆様が一体となって教育活動を進めていることを実感していただくことが重要と考える。	A	B

	3	各校務部会や各学年において、設定した目標達成のための実践が行われている。	A	各校務部会、各学年ともに組織的な運営を行い、生徒の成長のために日々尽力している。コロナ禍で制限されていた取組や活動を単純に元に戻すだけではなく、それぞれの取組の目的やねらい等、計画の細部を改めて見直したりしながら目標達成に向けて実践した。これらの実践から、反省点等をしっかりと検証することで、コロナ禍明け3年目以降の丁寧な取組につながると考える。	A	A
学校関係者評価委員による意見		P C D A サイクルを意識して、生徒の声を聴き、考え、主体的に活動を行う様子が感じられました。社会人にとって必要な能力ではありますが、計画を立てることに力を注ぎすぎず、行動力、修正力や日々物事について考える思考力が向上する実践の場であることを期待しています。				
学 習 指 導	4	生徒は基礎的・基本的な内容を身につけ、意欲的に学習に取り組んでいる。	A	個人活動やグループ活動も含めて、主体的に学習活動に取り組めるように、ハイブリッドな学習環境の準備や整備が必要である。	A	A
	5	教師は、分かる授業に努め、各学年や各教科では、生徒が計画的に家庭学習を行うための手立てがなされている。	B	学力を伸ばしたいと考える生徒が多いが、計画的な家庭学習が継続課題である。授業前の「目標」確認、授業後の「振り返り」確認など、今後も確実に全授業で行っていききたい。	A	A
	6	各教科では生徒の意欲向上が図れるよう、評価の観点を明確にしている。	A	学習指導要領を理解し、評価評定について研修を深め、学校組織としての共通確認など、「見える評価・分かる評価」を次年度の重要取組項目としていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		学習に関する研修会を開き、深めていると感じました。学力を伸ばしたいと考える生徒に対するより一層の支援を学校だけでなく、家庭や地域との協力・連携が深まり、より良い学習環境になることを期待しています。				
生 徒 指 導	7	本校では共通理解のもと、教師間の連携を図った生徒指導がなされている。	A	4月初めに全学年に向けて生徒指導部から共通指導事項を提示し、毎年見直しをかけている。生徒指導の中身も時代によって変化していく部分もあるため、年度の終わりに意見をもらい、次年度の共通指導事項に反映できる流れになっている。	A	A
	8	いじめや他の問題行動、不登校等に組織的、全校的に対応できる体制になっている。	A	西岡北中学校いじめ基本方針に従い、いじめ防止対策委員会を定期開催（月1回）、その他にも毎週1回、情報交換の会を設けている。また、実際にいじめが起こった際には臨時開催し、組織的・全校的に対応できる体制ができています。	A	A
	9	本校の生徒は、進んで挨拶をしている。	A	生徒によって反応に差異はあるが、玄関先での挨拶は毎年良くなっている印象を受ける。また、生徒会の「さっぽろっ子」自治的な活動の一環として行われた挨拶登校や、生活常任委員会の挨拶運動など、子どもたちの自主的な取組で挨拶への意識が向上している。	A	A

学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> 定期的にいじめ等に関する生徒指導事項の情報共有や意見交流が行われていると感じました。また、時代の流れに柔軟に対応、変化させながら生徒指導が行われていると感じました。 教職員が本当の意味での大人の良い手本として、挨拶の「意義」や「人と人との繋がりの大切さ」を共に考えながら、生徒が主体的に取り組む「自治的な活動」が継続的に行われ、地域連携のある新たな展開・活動になることを期待しています。 				
進路	10	本校では各学年に応じた系統的な進路指導がなされ、将来の生き方を考えさせ、正しい勤労観・職業観を育てる指導を行っている。	A	進路係と各学年の学活・道徳・総合系の協力のもと、その学年に応じた指導を行うことができた。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<p>いろいろな社会の方々と交流をもつ機会を設けながら、一人一人の将来を見据え、進路指導（キャリア教育）が充実することを期待しています。</p>				
生徒活動	11	本校では生徒の可能性を伸ばすための学級活動や生徒会活動、学校行事が行われている。	A	諸活動や行事を通して、生徒が主体となって計画し、取り組むことができた。特に「自治的な活動」や今年度初めて行った「縦割り意見交流会」などで生徒同士の関わりが増えたことで、今後につながる大きな成果を得ることができた。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<p>生徒が主体となって取り組む「自治的な活動」は大変なことも多いと思いますが、生徒が大きく成長する機会であると感じます。今後も、小学校や地域への展開が実施されていくことを期待しています。</p>				
研 修	12	本校では校内研修のねらいや方法が明確にされ、教職員が意欲的に取り組んでいる。	B	<p>研修会では、教科を超えて評価について学ぶ機会を設定した。次年度は、教職員に評価評定に関する資料を提示し、日常から意見交流しながら改善し合える環境をつくりたい。</p> <p>今年度から本格的に始まった西岡北中学校区の小中一貫した教育では、校内の意思統一や小学校との連絡をさらに強化していきたい。</p>	A	B
	13	本校では、学級を高めていくための学級経営交流がなされている。	B	年齢関係なく、日常的に活発な教員間の交流が生まれるよう、次年度の研修会では、学年経営について交流する機会を設けたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<p>教職員の意識向上のため、定期的に研修会が開催されていることがわかりました。研修によって、物事への新しい気づきや理解の再確認ができます。今後も、日常的に研修や交流を深めることができる環境であることを願っています。</p>				

情報	14	本校では保護者・地域の声を聞くとともに、学校の情報を積極的に保護者・地域へ周知している。	A	学校だより、「すぐーる」のアプリにより情報をこまめに発信することができた。また、学校アンケートなどで今後も生徒や保護者の声を継続的に聞いていきたい。	A	A
	15	本校では、生徒の個人情報の保護・管理に十分な配慮がなされている。	A	校務支援システムを有効に活用し、個人情報が適切に取り扱われるよう安全管理を徹底した。次年度も引き続き行っていきたい。	A	A
管理	16	本校では教材・教具の整備がなされ、有効に活用されている。	A	各担当者が適切に整備・活用している。	A	A
	17	給食・清掃・保健指導の充実に努めている。	A	各担当者により、適宜・適切な指導が行われている。	A	A
学校関係者評価委員による意見		「すぐーる」アプリの活用により、積極性や即時性のある情報発信が行われていると感じています。引き続きホームページ等における情報発信、学校と家庭の双方向性のある情報ツールの拡充や学校生活の基盤となる様々な環境の整備・活用が充実する学校づくりを期待しています。				